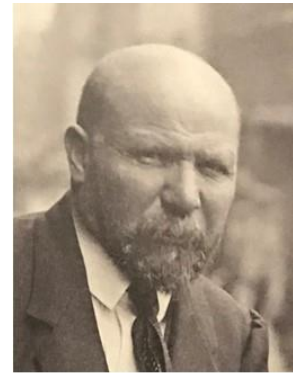


39 将来を見据えた篤志家の銀行家：アルベール・カーン

アルベール・カーン（1860-1940）は、南アフリカの金鉱とダイヤモンド鉱への投機で莫大な財産を築き、1898年に自らの銀行を設立しました。カーンは、銀行家として事業を成功させると同時に、慈善事業にも取り組みました。カーンは、世界平和の実現には、人々がお互いを知ることが大切であると考えました。若者に異文化を知ってもらいたいという願いから、世界一周することを目的とする奨学金制度を設立しました。また、1909年には、「地球史資料館」プロジェクトを立ち上げました。1931年までの間に世界中にカメラマンを派遣して、オートクローム写真（初めてのカラー写真）と映像に記録しました。



Albert KAHN
アルベール・カーン

パリ近郊のブローニュに暮らしたカーンは、邸宅の周囲の土地を少しずつ買って敷地を広げ、フランス庭園、イギリス庭園や故郷のボージュ地方をイメージした森も造りました。事業を通じて日本に関心を持ったカーンは、日本庭園も造りました。自邸の庭園にも、異文化を知ることが世界平和につながるというカーンの考えが反映されています。

カーンが日本庭園を造ったのは、当時の富裕層では日本人の庭師を抱えて日本庭園を造らせることが一種のステータスであったことと、彼自身が日本の実業家とも親交があったことが背景にあると考えられます。カーン自身も日本を訪れたことがあり、「日本の資本主義の父」と言われた渋沢栄一を始めとする財界の重鎮や総理大臣を二度務めた大隈重信を始めとする大物政治家と交流を持ちました。

カーンの邸宅は、現在のオー＝ド＝セーヌ県立アルベール・カーン庭園として、一般公開されています。日本村と呼ばれるエリアには、日本から移築した古民家や茶室があります。日本にある日本庭園とは少し異なりますが、フランスの樹木や石と日本の木造建築が融合した日本的な庭園です。日本村の隣には、約30年前に日本人造園家の高野文彰氏によって、日本現代庭園が造られました。これは、日本の伝統的な庭園の要素を取り入れた現代的な庭園です。庭園に隣接して、著名な日本人建築家・隅研吾の設計によるアルベール・カーン美術館があります。このように、庭園と美術館は、日本とフランスの文化的な対話を示すもので、緊密で安定した日仏両国のつながりを見ることができます。

掲載日：2023年12月1日